

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです

三流は、作業を与え、二流は、自由を与え、一流は、責任を与える

リーダーの中には、部下が一人前ではないと思い、細かく作業を指示する人がいます。例えば、ある企業と面談のアポイントをとるように指示した場合、「メール送る前に下書きを書いたら見せて」「どの資料を添付する?」「もしメールが返ってこないようだったら、電話して」と、ここまで細かく作業の指示を出す人です。こうすると部下は、「自分は言われたことだけをやっておけばいい」と思ってしまいます。ましてや、指示以外のことを部下がやったときに、「なんで指示以外のことをやるんだよ。まずは指示したことをきちんとやってくれよ」なんて言ってしまったら、もう終わりです。部下は何も自発的にやらなくなってしまいます。

最近のリーダーの悩みの中に、部下が指示待ち族になっているということが挙げられています。これはリーダーの責任です。リーダーは部下に仕事を頼むとき、「この部分は、N君が考えて」と、自由にやれる余地を少しでもつくってあげることです。しかし、自由を与えるだけだと、部下によっては適当にやる者もいます。だから一流のリーダーは、プラスで「責任」も与えます。責任を持たせると、部下は真剣になります。一生懸命に考えるようにもなりますし、凡ミスをしたり、途中で投げ出したりすることもなくなります。ただし、「責任をすべて部下に負わせる」のはいけません。そうすると、部下はリーダーを信頼しなくなります。無責任なリーダーである、と自ら公言しているようなものですから。

責任は、主に3つに分けられます。

- ① 遂行責任
- ② 報告責任
- ③ 結果責任

すべてを部下の責任にするのではなく、①と②を部下の責任にするのです。そうすることで、部下は途中で投げ出すこともなく、やり切りますし、報告もきちんとしてきます。③に関しては、リーダーの責任にします。そうすることで、部下も安心して仕事にとり組めます。部下からすれば、自分が約束通りに報告をしっかりし、きちんと最後まで遂行すれば、仮にうまくいかなくても、リーダーが責任をとってくれると考えられるからです。

仕事が遂行(完了)できなかった場合、リーダーにまったく責任がないという考えは、ナンセンスです。やはり上役ですから、責任は生じます。部下が未熟で心配な場合は、報告を密にもらうことです。

責任の3つを書いてください

① ()

② ()

③ ()